

クラス番号	638	担当教員名	松井 康成
テーマ	これからの地域共生社会を考える 一人とのかかわりを通じてー		
著書・論文 研究課題等	論文：「日本人学生と外国人留学生による互惠意識の形成ー介護福祉士養成施設における協同学習の実践に向けてー」（2019年修士論文/2020年日本教育支援協働学会発表抄録） 研究課題：社会福祉協議会を中心とした地域生活課題の把握と解決に向けた実践、在日外国人や留学生の抱える労働・教育問題		

## ゼミナール概要

キーワード：社会福祉協議会、ケア、協同学習、多文化共生

目的、内容、方法等：

人は誰かに支えられて生きています。また支えられている人も、実は誰かを支えています。そのような自覚、無自覚を問わない支えあいがあるのが我々の住む地域や社会を作っているのだと私は考えています。しかし新型コロナウイルスの発生により、その姿がゆがみ始めてしまいました。それまでの常識を疑わなければいけなくなり、人とのかかわりまでもリスクと考えるようになってしまったからです。もちろん、皆が健康であること、そのために感染をしない、させないための意識と行動が重要であることは言う間でもありません。ただ、皆が支え合うことで成り立っていた人の生活が、互いに距離をとることで精神的な距離を生んでしまい、ひいては誰かを排除したり、孤立を助長させてしまうといった様々な弊害を生む可能性があります。だからこそ、今は人と人とがともに繋がることの意味や価値を改めて問い直すことが必要ではないでしょうか。

また地域の抱える課題はコロナウイルスに限ったことではありません。障害者の社会参加促進、老々介護、虐待やひきこもりなど、生きづらさを感じている人たちはたくさんいます。本ゼミでは多様な地域生活課題と向き合うことで関心を広げ、自分にできることは何か、また実際に現場に足を運び、自分たちは何を大切に仕事をしていくのか、そんな気づきや学びに満ちたゼミにしていきたいと考えています。

授業計画：

時期	内容
3年次前期	社会福祉協議会を中心としたフィールドワーク、地域生活課題の明確化、日本地域福祉学会愛知大会の準備と参加
3年次後期	解決に向けたアプローチ、卒論執筆に向けた準備（論文の書き方の理解や先行研究など）
4年次前期	卒論執筆、指導
4年次後期	国試合格にむけた勉強（基本は自己学習していただくこととなります。専門範囲であれば適宜解説もします）

## 担当教員からのメッセージ

本ゼミは出席するだけでは十分な学習効果は得られません。なぜなら誰かが答えを持っていて、その答えを与えてもらうという性質のものではないからです。皆で課題を見つけ、それについて皆で学びあい、実践を通じて体得していく、そのようなスタイルで進めていきますので、人とコミュニケーションをとることが苦手な学生には向かないかもしれません（ただ、苦手でもそれを克服したいと考えている人は応援します。何事も経験です）。

また、私のゼミでは皆さんの「あんなことしたい、こんなことしたい」をできるだけ実現していきたいと思っています（もちろん良識の範囲内で）。意見や希望があればぜひお寄せください。